

探究的な学習のポイント

文責:市川 カ(番組監修/
元・東京コミュニティースクール校長)



【通信高校生のみなさんへ】

●「総合的な学習の時間」の学習に役立つ番組です！

この『総合的な探究の時間』は、現在「総合的な学習の時間」を履修しているみなさんが、調べ学習をする（レポートを書く）際にも役立つ番組です。

「総合的な学習の時間」には教科書がありません。正解がひとつではなく、みなさんの人生にも大きく関わるテーマ（例：将来の仕事）について、調べ学習をしていきます。番組では、与えられたテーマについて課題を自分で発見し、調べてレポートにまとめる具体的な方法やテクニックを紹介し、番組に登場するのは、みなさんと同じ現役の通信高校生です。みなさんも感じるような率直な思いからスタートし、とまどったり、思い切って行動したりする姿を自分に置きかえて考えることができると思います。あなたに身近な課題について探究することの楽しさ・おもしろさを、この機会にぜひ学んでみてください。

【教師、ご家族のみなさんへ】

●この番組について

現在の「総合的な学習の時間」に替わり、平成34年度から「総合的な探究の時間」が導入されます。NHK 高校講座『総合的な探究の時間』は、これに対応した番組ですが、「総合的な学習の時間」にもご利用いただけます。「探究的な学習」の特徴、学習方法、身に付く学力について、みなさんの抱く疑問にも答えながら、高校生たちがリアルに学ぶ姿を通して、具体的に“探究的な学習の学び方”が学べる番組です。

●「総合的な探究の時間」とは、いかなる学びか？

「総合的な学習（探究）の時間」において求められる「探究的な学習」とは、ネットで検索したことをまとめるだけの調べ学習ではありません。この番組では、「将来の仕事」といったテーマについて高校生が自分で「仮説」を立て、情報を収集し、整理・分析してまとめる調べ学習のプロセスを紹介します。最初の仮説は浅くても、このプロセスを何度も繰り返すことで、仮説が変化・発展し、考えが次第に深められていきます。＜次ページ図を参照＞

高校生が仮説を立て続け、探究のプロセスを積み重ねることで“主体的・対話的で深い学び”を実践し、“探究する力”を身に付けることにつながります。

●学校、家庭で指導する際のポイントは？

番組に登場する“おっちゃん”は講師ではなく、高校生には何も教えず、ひたすら語り合う伴走者です。学校や家庭で指導する際は、教師やご家族のみなさんも伴走者になって、時間をかけて高校生と語り合い、テーマについて彼らが持つ素直な思いや考えを「仮説」として掘り起こしましょう。こうして仮説が立ったら、次に「何を調べる？」「どうやって調べる？」と問いかけます。この問いかけが、調べる対象や調べ方の工夫に気づかせ、さらには現場に出向き、実際に人に会っての情報獲得を促します。臆せず自分で動けば、価値ある情報にたどりつくことができるという経験を彼らが味わう手助けをしましょう。

番組では多くの高校生がそうするように、スマートフォンを縦にして動画が視聴できるサイトも用意しました。ネット検索、写真撮影、インタビュー、取材メモなど、スマホは調べ学習に役立つ身近なツールです。スマホを最大限活用して調べ学習をするテクニックを、高校生たちは抵抗なく見つけることでしょう。探究的な学習に取り組むきっかけとして、さらには学習を続けるおもしろさを気づかせる仕掛けとして、スマホが大きな役割を果たすはずですよ。

探究的な学習のプロセス

探究的な学習は、与えられたテーマから課題を発見するために、生徒が「仮説」を立てるところから始まります。そして、「仮説」→「追究」（情報を調べ、収集する）→「表現」（情報を整理・分析してまとめる）というプロセスを繰り返すことで、仮説①→仮説②→仮説③と、仮説が変化・発展し、考えが深められていきます。

このプロセスにおいて最も大切なのは、生徒が自由な発想で自らの考えを仮説として立てることです。仮説によって見えてきた課題を調べる方法を見つけ、知りたいことを追究すると、さらに明らかにしたい仮説が立ち上がります。この積み重ねが“探究する力”を育みます。

※以下は文部科学省「総合的な学習の時間 問題解決スパイラル図」を番組独自に発展させたものです

